

安全設備が使用された海難事故事例

安全設備が使用された海難事故事例

事故概要①(漁船)

※運輸安全委員会 船舶事故調査報告書(令和2年11月25日)

- 2019年9月8日07:00頃、漁船(19トン、乗員6名)が北海道えりも町襟裳岬南東沖を航行中、他船(船種船名不詳)と衝突。
- 右舷中央部外板の破口から機関部に浸水。
- 排水が間に合わないと判断し、EPIRBの遭難信号を発信。
- 膨張式救命いかだへ乗り移り、乗組員全員が退船。
- 遭難信号を受信した海上保安庁により全員救助(負傷者なし)。

事故概要②(漁船)

※運輸安全委員会 船舶事故調査報告書(令和3年5月19日)

- 2020年10月29日05:30頃、漁船(19トン、乗員5名)が宮城県石巻市金華山東南東方沖を漂流中、主機を始動できなくなり、運航不能。
- 航行継続が困難と判断したが救助を要請しようとしたが、無線機の電源が入らず、EPIRBの遭難信号を発信。
- 遭難信号を受信した海上保安庁は本船を発見し、乗組員全員の無事を確認。
- 本船は、僚船から予備バッテリーを借用して主機を始動し、銚子港に着岸。

安全設備が使用された海難事故事例

事故概要③(漁船)

※運輸安全委員会 船舶事故調査報告書(令和5年3月1日)

- 2022年1月21日06:30頃、漁船(19.89トン、乗員8名)が沖縄県北大東村沖大東島南方沖を航行中、火災が発生。
- 機関室後部に設置されていた主機始動用バッテリー付近の電線から出火。
- 消火活動を断念し、船舶所有者に海上保安庁への通報を衛星電話で連絡。
- 救命いかだへ乗り移り、乗組員全員が退船。
- 海上保安庁から救助要請を受けた貨物船により発見され、全員が救助。

事故概要④(漁船)

※運輸安全委員会 船舶事故調査報告書(令和3年5月19日)

- 2017年5月1日02:43頃、漁船(19トン、乗員7名)が高知県土佐清水市足摺岬北方を航行中、暗岩に乗揚。
- 機関室の浸水が確認されたことから、排水ポンプで排水を試みたが、浸水量が多く断念。
- 船長は海上保安庁及び漁業無線局に通報
- 膨張式救命いかだへ乗り移り、乗組員全員が退船。
- 海上保安庁の巡視艇により全員救助。